

(4)基本フレーム

新市グランドデザインの策定に当たり、その前提となる基本フレームを設定します。基本フレームとは、平成10年度に実施した「新市グランドデザイン策定基礎調査」によって設定された都市フレームを基本として、新市グランドデザインの策定に必要な基本的な枠組みです。

対象地域

新市グランドデザインは、静岡市と清水市が共同で設置した合併協議会が策定するものであり、静岡、清水両市の市域を基本とするが、静岡、清水両市が、担っている既存の都市機能から、影響圏域は静岡県中部地域(富士川以西から大井川以东までの地域)と想定する。

目標年次

新市グランドデザインは、静岡、清水両市の合併により実現できる新市の姿を分かりやすく示していくために策定するものであり、都市フレームの目標年次は平成22年を基本とするが、概ね30年から40年後の長期的視点を見据えたものとする。

事業主体

新市グランドデザインは、静岡、清水両市の合併により誕生する新市の姿を具体的に明らかにするために策定するものであり、掲載する具体の事業の主体は、新市のみならず、国、県、第3セクター、民間等、新市建設に資するあらゆるものを想定する。

都市フレーム

人口、経済、土地利用、財政の4要素で構成する都市フレームは、次のとおりとする。

A人口フレーム

新市の平成22年における目標人口は71万人とし、その後、漸減していくものと想定する。ただし、新市グランドデザイン策定に際しては、定住人口のみならず、交流人口の増加に配慮するものとする。

B経済フレーム

平成22年の産業別就業構造は、次のとおりと想定する。

第1産業	第2産業	第3産業
2.8%	30.4%	66.8%

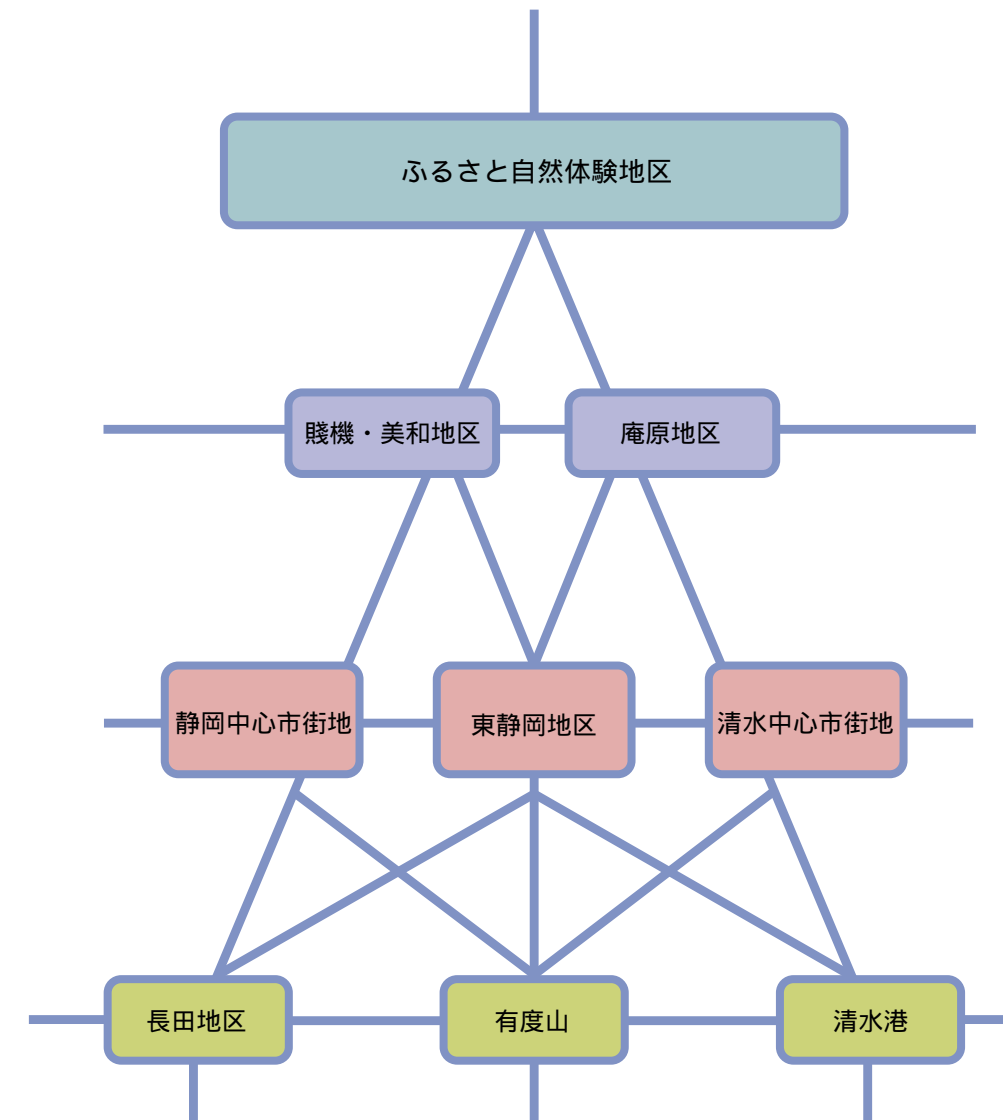
C土地利用フレーム

新市の平成22年における土地利用区分別面積は、次のとおりと想定する。

農用地	森林	水面・河川・水路	道路	宅地	その他	合計
6,213	105,573	3,833	3,895	8,223	9,641	137,378

(単位: ha)

なお、土地利用の基本的な骨格イメージは右のページのとおりである。



D財政フレーム

現行の財政規模(両市の一般会計の合算)による今後の見通しは次のとおりと想定する。

区分	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
財政規模	2,439	2,453	2,458	2,465	2,476	2,483	2,521	2,548	2,575	2,613	2,650

(単位:億円)

合併による増加財源及び追加財政支出額(投資額)は、次のとおりと想定する。

区分	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
増加財源	46	38	39	39	39	39	39	40	40	40	37
投資額	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	18

(単位:億円)

なお、合併を契機として、民間活力の活用などの新たな発想による事業手法の展開を検討する。

新市の財政フレーム設定の概念図

